

をはいて、之れも昔の名残なる圍爐裡を圍んで焚火をなしつつ、樸訥な世話しに耽つて居る光景、彼等の顔には、「不安」もなければ、「野心」もない。實に凋落した武士だ。こんな光景を度々見たが、今から考へれば好畫題たるを失はず。

■ ■ ■

□本號は全部小笠原紀行を以て編成すべき筈なりしも、記述すべきこと頗る多く、ために一冊にては纏り兼ね候につき、續稿は次號以下に漸次掲載すること、致し候

□口繪原色版はワットマン四ツ切大にて、寫生の儘少しも手を入れざるものに候

□次號にはイースト氏寫生談の續稿、靜物寫生の話、藝術小言、アルフレッドパルソンス氏の日本の初夏等を出すべく候

□日本水彩畫會々友諸君より、番號の御問合せ有之候得共、通信其他には番號を用ふるに不及候間左様に承知ありたく候

□繪葉書競技會の題は人の顔(寫生)菜の花(圖案)にて、メ切は本月末日迄に候、出品者は郵券五錢を添へ本會へ御送付あれば、選評の上他の出品の分と交換して御返送可

致候

近事雜聞

△小樽白百合會第二回展覽會は、本月七日八日同地英和學校に於て開會、會員及會員外の出品のほか、參考として専門家の出品も多數ありて極めて盛會なりしといふ。

▽安中みづゑ會主催の洋畫展覽會は、本月十三、十四兩日同地小學校に於て催され、參觀人頗る多く盛況を呈せしといふ。

△東京美術學校洋畫科本年の募集人員は二十五名にして、希望者九十八名あり、去る一日二日木炭寫生の試験あり、及第者は何れも一二年デッサンに従事せし人々のみなりしといふ。

△函館パレット洋畫會にては、三月廿七日と三日間同地一貫補習學校にて展覽會を開き、百五十餘點の出品ありしといふ。

讀者の領分

■皆様のところに洋畫講義録の六號から十二號迄のを御不用の方は相當の代價で譲り受けたく思ひます(千葉縣長生郡二宮本郷

村安藤滋) ■吾地方に今年も夏期講習會を開かれたし(信濃生)

問に答ふ

■◎小樽紫明生へ、彫刻刀は出來合はない入用の人は東京市本所區表町四十五吉田松太郎氏へ頼まれたなら作て呉れる代價は四十錢位ひとの事 ■高松康之助氏は會友なりや(松岡生)◎會友なりしも本年一月以來會費を送らず居所も不明 ■ハガキ文學の定價を問ふ(上京生)◎毎月一回一日發行定價十錢發行所は東京小石川久堅町日本葉書會 ■OW紙に寫生せしに色が吸収されて困る如何にしてよきや(撫子)◎紙が古くなつたか濕氣を帯びた故ならん救済によき手段なし ■一 ワットマン全紙を水貼する方法如何 ■二 銀泥と他の繪具との調和の良否 ■三 圖按畫手本の賣捌所(小樽蝦夷の子)◎一 小なる紙を水貼すると別に變りなし縁に貼る紙は丈夫な者を選べばよし ■二 金銀は多くの色に調和よき者なり詳しくは『水彩畫階梯』の巻尾を見よ ■三 東京日本橋大倉書店に圖案の書ありしと覺ゆ問合せされたし。